

研究テーマ	[Ⅲ造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと] 材料のよさや特徴を生かしてつくり出す造形活動の工夫 －小学校第6学年「ニュースペーパーでアートしよう!」の実践を通して－
-------	--

古河市立仁連小学校 教諭 飯田 正二

## 1 研究テーマについて

現行の小学校学習指導要領解説図画工作編では、第5学年及び第6学年の目標として(2)に「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」と示されている。そして、学習内容においては、A表現(1)として「材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。」とある。その指導事項の一つとして、「ア 材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。」がある。また、この内容の解説として「『材料や場所などの特徴を基に』とは、この時期の児童の活動や意識の広がりに応じたもので、材料や場所などは概ね中学年までと同様であるが、高学年ではその具体的な特徴をとらえることを示している。」としている。さらに、「『発想し想像力を働かせてつくる』とは、児童が材料や場所などに働きかけてとらえた特徴や自分のイメージなどを基に発想し、これを想像力を働かせて一層ふくらませながらつくることを示している。」とある。これを受けて、児童が造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すためには、材料や場所を基に、そのよさや特徴から発想を広げ、表し方を考えながら児童が自ら進んでつくっていくことが大切であると考えた。

児童はこれまでの様々な造形活動を通して、はさみやカッター、のこぎり等の材料を切ったり刻んだりする道具、また、用途に合わせた接着剤やセロハンテープ、釘やホチキスなどの材料をつなげる道具、クレヨンやパス、水彩絵の具といった着色材料などの使用方法を学習してきた。しかし、これらの既習の道具を一切使わずに造形活動を行うことで、より一層、材料のよさや特徴を基に発想し想像力を働かせてつくることのできるのではないかと考えた。さらに、道具を一切使わないことから、できないと思われていたことでも課題をいろいろな角度から見直すことで、解決策を見い出そうとする態度も身に付くのではないかと考えた。

そこで新聞紙という身近な材料を用い、教室や廊下等、やはり身近な場所で新聞紙をちぎったり、丸めたり、包んだり、ひも状にしてつなげたりといった様々な加工の工夫をしながら造形活動に取り組むことを考えた。日常生活において紙を切るためにははさみやカッターを用いるが、この造形活動ではそれらの道具は使わない。また、紙をつなげたり貼ったりするためにはのりやセロハンテープなどを用いるが、やはり使わない。着色して表現したい部分があっても絵の具などは使わない。そういった制約の中で、児童が新聞紙のよさや特徴を見出し、それらを生かして発想し、想像力を働かせてつくることをねらいとした。

## 2 ねらいに迫るための手立て

## (1) 材料のよさや特徴に気付くための手立て

導入における新聞紙のよさや特徴についての気付きが多ければ多いほど、製作の段階で、「細く丸めると丈夫になる。」とか「細く裂いた新聞紙を三つ編みしていくとひもみたいになる。」などと発想し、新聞紙のよさや特徴を生かすことができると考える。そこで、製作前に自由に新聞紙に触れながら、新聞紙のよさや特徴についての気付きを話し合う時間を設定する。また、その気付きをワークシートに記録し、製作中に振り返ることができるようにする。

## (2) 表し方を工夫するための手立て

小学校学習指導要領解説図画工作編における小学校第5学年及び第6学年の目標の一つに「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」とある。そこで、創造的な技能につながる様々な表し方の工夫ができるように、道具の使用を制約することなどを手立てとして考えた。

## ① 授業形態の工夫

製作時、児童は教師の目の届く範囲を活動場所とする。一人で活動しても、グループで活動してもよいものとするが、そのグループでさえ固定化しないものとする。こうして児童が自由に活動し、自由に友人とかかわることができることで、発想や

表現の工夫が苦手な児童でも、友人の表し方や表現の工夫を取り入れ、そこから自分なりの表現ができるようにしたいと考えた。

② 道具の制約

材料のよさや特徴を生かすために、加工や着色に必要なハサミやのりなどを一切使わないものとする。道具の使用を制約することで、材料のよさや特徴から表し方を工夫してつくりたいものをつくっていくものとする。

③ 言葉かけの工夫（指導と評価の一体化）

児童がつくりだす過程のどこにおいて、どうしたいのかを、教師の言葉かけ、児童のつぶやきや手の動き、視線や友人との会話、つくる速さや丁寧さなどの視点から教師が観察し、評価する。その評価から指導・支援を必要としている場合、どの過程でのつまづきかを把握し、発想を促したりつくり方に気付かせたりするなど、それぞれの児童の実情に合わせた適切な指導をする。発想が苦手であったりつくりだすことが困難であったりする児童には、教師が児童に寄り添いながら、わずかな気付きでも試してみるように助言する。また、関心や興味がどこに向けられているのかを探し出し、児童が自ら発想したり工夫した表し方に気付いたりできるようにさせたい。

④ 導入における言語活動

導入（第1次）において、新聞紙のよさや特徴について小グループで話し合う活動を取り入れることで、より多くのよさや特徴を児童が気付き、製作に生かすことができるようにする。

3 実践例

(1) 題材名 ニュースペーパーでアートしよう！ A表現（1）

(2) 目標

○ 材料としての新聞紙のよさや特徴を体全体を使って感じ取り、発想をしながら、新聞紙のよさや特徴を廊下や教室などの場所と効果的にかかわらせ、新たな表し方を試みたり、つくりかえたりし、つくりだそうとする。

（造形への関心・意欲・態度）

○ 材料としての新聞紙のよさや特徴を廊下や教室などの場所と効果的にかかわらせ、新たに発想し、試行錯誤をしながら表し方を工夫することができる。

（発想や構想の能力）

○ 材料としての新聞紙のよさや特徴を生かした表し方を工夫し、つくりだせる。

（創造的な技能）

○ 材料としての新聞紙のよさや特徴を廊下や教室などの場所と効果的にかかわらせながら、それぞれのよさや特徴に気付き、自分や友人のいろいろな表し方のよさを感じる。

（鑑賞の能力）

(3) 指導と評価の計画（2時間扱い）

時数 次 時	活 動 内 容	評 価 規 準	評 価 の 観 点			
			関 意	発 想	技 能	鑑 賞
第1次 15分	○包む、ちぎる、丸めるなど体全体を使って新聞紙と十分に関わる。 ○材料として気付いた新聞紙のよさや特徴について話し合う。	・材料としての新聞紙と体全体を使ってかかわりながらそのよさや特徴に気付く。 ・話し合ったり気付いたりした材料のよさや特徴を書きとめ製作に生かそうとする。	○			○
第2次 60分	○新聞紙と廊下や教室などのよさや特徴をそれぞれ生かしながら表したいものをつくりだす。	・材料としての新聞紙のよさや特徴、展示場所としての廊下や教室から新たに発想し、試行錯誤をしながら、表し方を工夫することができる。 ・材料としての新聞紙のよさや特徴を生かした表し方を工夫し、つくりだせる。		○		○
第3次 15分	○お互いの作品に触れ合い、それぞれの表し方の工夫やよさについて話し合う。	・材料としての新聞紙のよさや特徴を廊下や教室などの場所と効果的にかかわらせながらそれぞれのよさや特徴に気付き、自分や友人のいろいろな表し方のよさを感じる。				○

(4) 本時の学習

① 目標

材料としての新聞紙のよさや特徴，また，展示場所としての廊下や教室を生かして発想し，想像力を働かせながら表し方を工夫して，表したいものをつくりだすことができる。

② 準備・資料

児童：新聞紙（約1週間分），筆記用具，活動しやすい服装

教師：補充用の新聞紙，脚立，ビニール袋（ゴミ出し用），ワークシート  
付せん紙

③ 展開（2時間）

学 習 活 動・内 容	指 導・支 援 と 評 価（評価規準：方法）
<p>1 本時の学習内容について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ニューズペーパーでアートしよう！</p> </div> <p>○ 新聞紙だけを使って廊下や教室に表したいものをつくる。</p> <p>2 新聞紙のよさや特徴をつかむ。</p> <p>○ ちぎったり，丸めたり，包んだりして新聞紙と体全体を使ってかわかる。</p> <p>○ 材料としての新聞紙のよさや特徴を話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>予想される児童の気付き</p> <p>ちぎる 折る 丸める 包む ねじる もむ 結ぶ よる 裂く たたむ なびかせる 透かす 敷く はさむ ひっかける 広告や写真には色がついている</p> </div> <p>3 廊下や教室などに新聞紙を使って表したいものをつくりだす。</p> <p>○ 廊下や教室にすでにある物や人の動き，光など，その場所の環境にかかわりながらつくりたいものを発想する。</p> <p>○ 新聞紙やその場所のよさや特徴から発想を広げながらつくる。</p> <p>○ 自分の表現や友人の表現から，新たに発想したり，試行錯誤したりしながら表したいものをつくりだす。</p> <p>4 本時の活動を振り返り，鑑賞する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>評価の視点</p> <p>形 色 大きさ 展示の仕方 つくり方（加工の仕方）</p> </div> <p>○ ワークシートに感想や自己評価を記入する。</p>	<p>・ 事前に学習内容を知らせ，表したいものやつくる場所の大まかな構想を立てられるようにしておく。</p> <p>・ あらかじめ新聞紙を用意できなかった児童を把握し，補充用の新聞紙を使うことを知らせておく。</p> <p>・ 友人と相談し合いながら活動してもよいことを知らせ，より多くの気付きが得られるようにする。</p> <p>・ 出来上がった作品は写真を撮ってから資源ごみとすることを伝え，使いたい分の新聞紙を自由に使ってよいことを知らせる。</p> <p>・ 気付いたことをワークシートに書きとめることを伝える。</p> <p>㊦ 材料としての新聞紙と体全体を使ってかわりながらそのよさや特徴に気付く。 （鑑賞の能力：ワークシート，観察）</p> <p>㊦ 話し合ったり気付いたりした材料のよさや特徴を書きとめ製作に生かすそうとする。 （造形への関心・意欲・態度：ワークシート，観察）</p> <p>・ 一人でも友人同士でも活動していいことを知らせる。</p> <p>・ 高いところでの作業には脚立を使うことを進めるが，十分に安全に配慮を要したい。</p> <p>・ 様々な表し方を試すことを促し，その中から自分が表したいものに適した表現方法が見付けられるようにしたい。</p> <p>㊦ 材料としての新聞紙のよさや特徴，展示場所としての廊下や教室から新たに発想し，試行錯誤をしながら，表し方を工夫することができる。 （発想や構想の能力：観察，作品）</p> <p>㊦ 材料としての新聞紙のよさや特徴を生かした表し方を工夫し，つくりだせる。 （創造的な技能：観察，作品）</p> <p>・ めあてを確認し，評価の視点を参考にして自己評価をするように指示する。</p> <p>・ 付せん紙に友人の作品のつくり方や形の面白さなどの良い点を見付け，書くことを確認する。また，なぜよいと思うのか，どうして面白いと思うのかを言葉で表すことを伝える。</p> <p>・ どの作品にも付せん紙が付くように声をかける。</p>

○ 互いの作品を見合い、相互評価をする。

5 次時の活動について知る。

○ 作品の写真をワークシートに貼り、掲示する。

6 友人と協力して後片付けをする。

㊦ 材料としての新聞紙のよさや特徴を廊下や教室などの場所と効果的にかかわらせながらそれぞれのよさや特徴に気付き、自分や友人のいろいろな表し方のよさを感じる。  
(鑑賞の能力：話し合い、ワークシート)

・活動全般に対し称賛することで達成感や成就感を得られるようにしたい。

・資源ごみになるように新聞紙のみを一まとめにするようにする。

### (5) 学習の実際

#### ① 平成22年度の活動の様子

昨年度は体育館で活動した。導入では体育館という広さから、体全体を使って新聞紙とかかわる時間を設定した。児童は思い思いに新聞紙を広げ、図1や図2のようにまるめたり、ちぎったり、くるまったりしながら新聞紙とかかわり、新聞紙のよさや特徴について話し合った。しかし、体育館は広いものの起伏がなく、場所を生かすことは難しく、ねらいの設定に課題が残った。図4は人の往来とその広さを生かそうと、お菓子屋さんをイメージした活動が見られた。



図1 新聞にうもれてみた。



図2 何をつくろうか試行錯誤している。



図3 屋根の骨組みを丈夫にしてみた。



図4 お菓子屋さんを開こうかな。

#### ② 平成23年度の活動の様子

前年度の反省から場所とのかかわりを重視し、活動場所を教室と廊下とした。導入では狭いながらも床に新聞紙をたくさん広げ、全身でかかわる姿が見られた。また、図5のように新聞紙とかかわって気付いたよさや特徴をすぐ書きとめる姿が見

られた。

図6は3人の児童による作品である。個々が思い思いにつくったものを立てかけたり，並べたり，引っかけたりして楽しんでいた。図7と図8は試行錯誤しながらくす玉をつくって楽しんでいた。はじめはくす玉を放り投げていたが，ロッカーの上からならもっと面白くなるのではないかというアイデアを試していた。図9の児童は船をつくってみたが，教室や廊下にイメージに合った場所がなく，教室にあった青いファイルを利用した。図10の児童は付せん紙を使ってよさを認め合っていた。

振り返りと鑑賞においては，あらかじめ鑑賞における視点を板書しておき，単に「おもしろい」，「じょうず」といった感想にならないように，「何がどうよいのか」，「どうしてそう感じるのか」というように表現することを指導した。こうした感情を言葉で具現化する活動を通して，次のつくりだす活動に生かすことができるのではないかと考える。図10は互いに作品を紹介した後，気付いたよさを付せん紙に書きとめている活動である。



図5 気づきをワークシートに書きとめる。



図6 階段の踊り場を生かした作品。



図7 くす玉をつくってみた。



図8 上からくす玉を割ってみた。



図9 ファイルの青を利用した展示。



図10 付せん紙を使ってよさを認め合った。

#### 4 成果と課題

これまで場所を変えながら何度かこの題材を実践してきた。事前の説明や動機付け、場所の選定によって発想の広がりが変わってくるのを感じた。

成果としては、道具を一切使わないことから、製作にあたって戸惑っていた児童が、試行錯誤をしながら様々な表現をすることができたことである。カラーの新聞紙を活用して、モノトーンの商品だけでなくカラフルな作品を製作した児童もいた。また、時間にも制限があるため、児童は集中して製作をしていた。図11から図14は鑑賞のワークシートである。裏面に相互鑑賞での付せん紙が貼ってある。

一方、課題としては、導入で提示した作例から発想が広がらず、棒状のものを何本かつくっただけで、製作が止まってしまう児童もいた。「立てかけたり並べたりして飾ってみよう。」とアドバイスした。また、体育館のようにつくりたいものとかかわることが難しい場所もあり、今回（平成23年4月）実施した教室や廊下といった普段生活している場所とのかかわりでの製作の方が児童はつくりやすかったようである。

新聞紙のみで製作するという制約のある題材ではあるが、児童の新たな発見を期待し、今後も実践していきたい。

図11

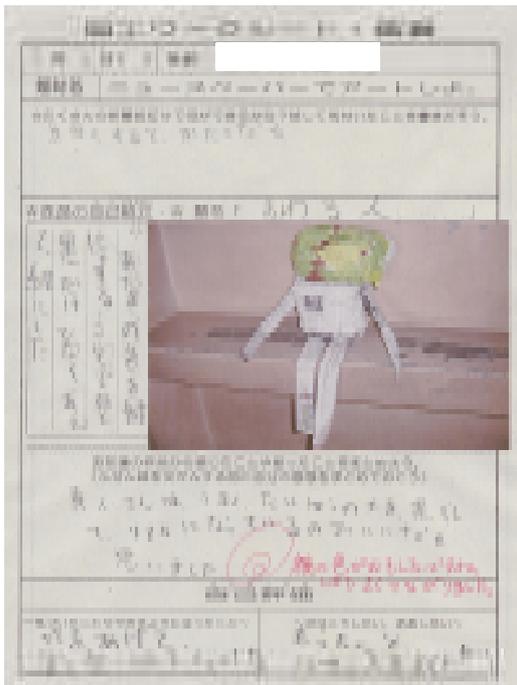


図12

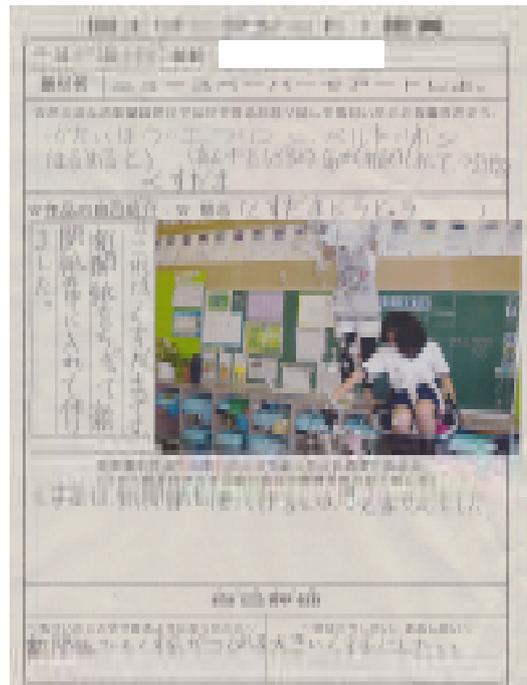


図13



図14

